

第1学年SS課題研究r1「キーワードマッピング（KJ法）」

教員用 授業の流れ

1 授業実施場所

1年生 各教室（授業担当者 主に副担任で担当）

2 生徒の持ち物

宿題：事前課題（自分の課題研究のテーマになりそうな文献もしくは新聞切り抜き（ネットコラムでも可）の収集（文献の場合5分程度で読めるペーパーやレビュー程度が望ましい。論文や冊子ならば、5分程度に抜粋できるように考えておくこと。）印刷物が望ましい。スマホやタブレットで閲覧も可。

SS 課題研究 r1 事前課題「文献の収集」について、課題研究メソッド、課題研究ノート、筆記具、赤ペン
事前課題記事（課題研究のテーマになりそうな文献もしくは新聞切り抜き（ネットコラムでも可）

3 教員の準備するもの

「ワークシート」、「キャリアファイル」（各クラスに保管してあるものを配布）

「SS 課題研究 r1 事前課題「文献の収集」について」は担任から9/2（金）に配布

※手持ち資料：教員用 授業の流れ、課題研究メソッド2ndEdition

4 授業展開例

	時間	学習内容・発問例	教員の指導・留意点
事前		各自の課題研究のテーマになりそうな文献や新聞記事を各自で集め切り抜きや印刷・文献を持参する。 (ネットのコラムやニュースでも可だが、できれば印刷してくる。できなければ、スマホやタブレットで閲覧できるようにしておく)	担任：持参できていない生徒については、クラスにある新聞から選んでおくように朝STで伝える
導入	5分	本時の目的を確認する ワークシート、キャリアファイルを受け取る 「今日は、研究テーマへの知識・理解を深めリサーチクエスチョン（問い）を導くための手法として有効な「 <u>キーワードマッピング（KJ法）</u> 」について学びます。これは、次回からのミニ課題研究、そして、3学期になれば自分たちの研究テーマを決める際に活用できる手法ですので、今日はそのやり方を学びましょう。」 「みなさんには、自分の課題研究のテーマになりそうな文献や新聞記事を各自で持ってきてもらいました。その際、キーワード（その課題を理解する際にかぎとなる言葉）を抜き出して自分の興味・関心や疑問を掘り下げていくことは、課題研究のテーマ設定やリサーチクエスチョンの設定において有効な手法の1つです。この手法は自然科学分野、社会科学分野の両方で用いることができます。 本時の目的は ・ キーワードマッピング（KJ法）のやり方を学習する ・ 事前課題の文献を用いてキーワードマッピングを行う ・ キーワードマッピングから問いをたてる ・ 図を文章化する ことです。」	9/9（金）は45分授業 「キーワードマッピング」の意義について説明する（☞ 課題研究メソッド P. 39-42 参照）。 P39 マンダラート（知識整理） P40 キーワードマッピング（言葉の関係理解） P41 ロジックツリー（論点整理・課題の理由分析）

<p>展開 1</p>	<p>5分</p>	<p>「貧困に関する新聞記事」からキーワードマッピングの方法を確認</p> <p>この単元の最終目標は皆さんの事前課題で選んだ文献の課題を文章化することです。まず、活動③「キーワードマッピングの内容を文章化する」をみてください。この例は活動①の「子どもの貧困に関する新聞記事」から作られています。</p> <p>文章化のためには活動②「キーワードの図解化(キーワードマッピング)」が必要です。キーワードマッピングのためには活動①「キーワードを抜き出す」ことから始めます。キーワードを抜き出すポイントは①内容を説明するのに必要な語句②意味が分からない語句③重要な語句です。では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの貧困」の文章を見て、そこから抜き出されたキーワードを確認し、活動②図解を見ていてください。 ・この図解の中で不明や疑問は疑問文?の形で書かれていますね。これが、研究テーマになる可能性を秘めている部分です。では、図解を文章にした活動③を読んでみましょう。 	<p>説明では、一番下(活動③)を導くために活動②を活動①を行うと下から上に説明する</p> <p>事前に読んである生徒が多いので、図の書き方だけを確認する</p>
<p>展開 2</p>	<p>10分 10分 10分</p>	<p>事前課題記事によるキーワードマッピング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動①「キーワードを抜き出す + キーワードをグルーピングする」(今回は時間の都合上、図の中に直接キーワードをグルーピングしながら書き出す) ・キーワードをグループピングする。 <p>「次に関連のあるキーワードでグループを作ってください。できたらグループに名前を付けてください(新たなキーワードの追加)</p> <p>活動②「キーワードの図解化 生じた疑問を記載する」</p> <p>グループどうしの関係を矢印などで示したり、言葉を書き加えたりして、課題の本質が何であるか、明確になるように図示しましょう。</p> <p>活動③「キーワードマッピングの内容を文章化する」</p> <p>キーワードカード間のつながりを文章化する。また、用紙に記載した生じた疑問についても文章に盛り込んでいく。</p>	<p>深く考えず、語句をたくさん抜き出すようにする。</p> <p>実際のキーワードマッピングでは、付箋にキーワードを書き、貼り直しながら枠で囲み、図を作成する(今回はなし)</p>
<p>展開 3</p> <p>ま と め 回 収</p>	<p>5分</p>	<p>課題研究メソッド p39～41 説明</p> <p>P40 キーワードマッピング(言葉の関係理解)に至らない場合は、P39 マンダラート(知識整理)を行う。これは、中心に重要なキーワードを書き、周囲に関連用語を書き、その関連用語についても、それぞれの周囲に関連用語を書くことで、ワードの関連性を整理する用法。また、課題を見出すためには、P41 ロジックツリー(論点整理・課題の理由分析)が有効になる。これは、「なぜ?」「なぜ?」を重ねることで、この課題の論点を絞ることができる。</p> <p>まとめ</p> <p>このような方法を用いて、論点を絞り、リサーチクエッション(問い)を導き、課題研究のテーマを導きます。</p> <p>ワークシートを回収してください。</p> <p>その他の資料は、キャリアファイルに入れてください。</p> <p>キャリアファイルは各クラス所定の位置へ返却してください。</p>	<p>時間がなければ飛ばすこともできる</p> <p>ワークシートは担任へ内容確認して、後日返却しファイルに入れるように指示</p>

